

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成19年12月3日

【評価実施概要】

事業所番号	272100538
法人名	社会福祉法人音羽会
事業所名	グループホームうぐいすの里
所在地	西津軽郡鰺ヶ沢町大字長平町字甲音羽山65-411 (電話) 0173-72-1314
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年7月2日

【情報提供票より】(平成19年6月6日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤 19人, 非常勤 1人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物構造	2ユニット:鉄骨造り、1ユニット:木造 造り		
	鉄骨:1 階建ての	1 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	理美容代1,000円～ほか 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	200 円
	または1日当たり		780 円	

(4)利用者の概要(6月6日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	7 名	要介護2	10 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鰺ヶ沢町立中央病院、湊谷歯科診療所
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山々に囲まれ、四季を感じることができ、また、窓からは岩木山を望むことができる自然豊かな環境に立地しているホームである。

住宅街からやや距離があるため、地域との関わりを持つことが難しい場所ではあるが、運営推進会議のメンバーである地元の老人クラブ会長や民生委員等を通して気軽にホームに立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。実習生等の受け入れを行っており、その際は個人情報保護に関する誓約書を交わす等、利用者のプライバシーに配慮しながら地域に開かれたホーム作りを行っている。

内部・外部研修を通して職員の資質向上に努めるとともに、運営者は同業者との連携の必要性を認識しており、町内の6事業所で交流会を立ち上げて情報交換の機会を確保している。

法人内に介護老人保健施設があるため、医療関係者にいつでも相談できる体制となっているほか、終末期等のケアに対応しており、家族や医療機関とケアの方針を相談する等、意思統一を図りながら利用者の健康面の支援を行っている。

【特に改善が求められる点】

ホーム独自の理念を作成し、全職員への周知を図っているが、地域密着型サービスの役割を理念に盛り込むことを検討中なので、今後の取り組みに期待したい。

内部・外部研修を通して虐待に関する知識を深めるとともに、虐待を発見した場合の対応等を記載したマニュアルを作成したいと意欲的なので、今後の取り組みに期待したい。

外部研修への職員派遣や、その後の報告会の実施等、研修には積極的に取り組んでいるが、これまで研修を主催した団体に問い合わせ等の取り組みを通じて、内部・外部研修の年間計画を作成してはどうか。

夜間に災害が発生した場合に備えて連絡方法等に関する話し合いは行っているが、職員配置等、実際と同じ体制で避難訓練を行ってはどうか。また、食料や飲料水等の備蓄品を用意することにも期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果について管理者及び全職員で話し合いを行っており、分かりやすい理念の作成や、研修報告書の様式の見直し等、できる部分から改善に向けて具体的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価のねらい等をミーティングなどで全職員に周知しており、職員は理解している。自己評価を実施する時は全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーには文書や電話等で参加を促している。会議では利用者の状況や日々の取り組み等を報告し、メンバーの意見を引き出している。また、自己評価や外部評価の結果は次回の会議で説明、報告する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	個別の手紙で利用者の暮らしぶり等を毎月家族に送付するほか、職員の異動等がある時には面会時などに報告している。面会時には家族が気軽に希望等を話せる雰囲気作りに努めるほか、家族の相談にはどの職員でも対応できる体制を整えている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を文書に明示したりホーム内に掲示するほか、家族に対してアンケートを実施する等、家族の要望や意見等を聞き、それを今後のケアにつなげる取り組みが行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	住宅街からやや離れた場所に立地しているが、運営推進会議のメンバーである地元の老人クラブ会長や民生委員等を通じて地域との関わりを持つよう取り組んでいる。高校生の職場体験やヘルパーの実習生を受け入れており、受け入れの際には利用者のプライバシーに配慮している。また、今後は地域行事に参加したいと意欲的である。

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	「家庭的な雰囲気の中でお年寄りとスタッフが一緒に生活することで忘れかけていた日常生活や残存能力を引き出し、安心してその人らしくふつ々の暮らしを送れるように支援すること」というホーム独自の理念を掲げている。理念をホーム内に掲示して全職員への周知を図っており、職員は理念の意味を理解し、日々のケアに反映させるよう努めている。 地域福祉権利擁護事業に関する勉強会を行うほか、権利擁護事業を利用している方がいるため、職員は制度の概要を理解しており、相談があった場合には適切な支援が行える体制となっている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	申し込みがあった時はホームを見学してもらったり、自宅を訪問する等、利用希望者や家族と十分な話し合いを行い、意向にそうよう調整するなど、安心してサービスを開始できるよう支援している。 利用者と一緒に過ごすことを通じて個々の気持ちを理解しようと努めている。また、裁縫や料理の作り方を教えてもらう等、利用者と職員が共に支えあう関係を築いている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	利用者一人ひとりの言葉に耳を傾けるとともに、行動を観察し、個々の希望や意向の把握に努めている。また、家族の意向も聞いており、職員間で話し合いを行った上で個別具体的な介護計画を作成している。計画は定期的な見直しのほか、利用者の状態や家族の希望等に変化があった時は随時の見直しを行っている。 同法人の介護老人保健施設の協力を得て医療連携体制を整えるほか、利用者の意向に合わせて外出する等、個々のニーズに柔軟に対応している。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者への対応について管理者が指導したり、会議の時に確認する等、一人ひとりのプライバシーや自尊心を大切にされた対応を心がけている。また、言動を急かすことなく、個々のペースに合わせたケアを提供するよう努めている。 母体施設の栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成している。食事の時は利用者にごしらせ等を手伝ってもらったり、会話をしながら職員も一緒に食事を摂る等、楽しんで食事ができるよう工夫している。 共用空間にはソファー等の家具を置いたり、季節の花を飾る等、家庭的な雰囲気で暮らせるような空間作りが行われている。

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、地域密着型サービスの役割を理解している。「家庭的な雰囲気の中でお年寄りとスタッフが一緒に生活することで忘れかけていた日常生活や残存能力を引き出し、安心してその人らしくふつうの暮らしを送れるように支援すること」というホーム独自の理念を作成しているが、地域密着型サービスの役割を反映させたものとはなっていない。	○	地域密着型サービスの役割を理念に盛り込むことを検討中なので、早期の実現に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示して全職員への周知に努めている。職員は理念の意味を理解しており、日々のケアサービスに反映させるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域から離れた場所に立地しているが、運営推進会議のメンバーである地元の老人クラブ会長や民生委員等を通じて地域との関わりを持ち、ホームを理解してもらうよう働きかけている。今後は地域行事への参加も検討している。また、高校生の職場体験やヘルパーの実習を受け入れている。外部の人を受け入れる場合は利用者のプライバシーや個人情報の保護に配慮し、個人情報保護に関する誓約書を交わす等の対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価のねらい等をミーティングで全職員に周知しており、職員は理解している。自己評価には全職員で取り組み、また、外部評価の結果を受けて改善策等を話し合い、今後の取り組みにつなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文書や電話等で会議への参加を促しており、会議では利用者の状況や日々の取り組み等について報告し、メンバーの意見を引き出すよう努めている。また、自己評価や外部評価の結果は次回の会議で説明、報告する予定である。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町にパンフレットを配布するほか、自己評価や外部評価の結果は今後報告する予定である。運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員がいるので、センター職員を通して連携を密に図って行きたいと意欲的である。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業に関する勉強会を行っているほか、権利擁護事業を利用している方が数名いるため、職員は制度の概要を理解している。また、相談があった場合は適切な支援が行える体制となっている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は常に現場に目を配り、虐待のないケアを心がけているが、職員が虐待について理解を深める機会が確保されておらず、また、虐待を発見した場合の取り決め等も整備されていない。	○	内部・外部研修への参加を通して、虐待に関する職員の理解を深めたいと意欲的なので、今後の取り組みに期待したい。また、母体施設と協同して虐待を発見した場合の対応等に関するマニュアルを作成予定なので、早期の実現に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は書類を基に丁寧に説明するとともに、不安等がないか、利用者や家族の意見を引き出す働きかけを行っている。また、契約改訂時や退居時も家族等に説明し、同意を得ている。退居時には、必要に応じて退居先に関する情報提供を行う等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日々の暮らしぶり等については個別の手紙で毎月家族に報告している。金銭管理は法人本部で行っており、定期的に報告している。また、職員の異動等、利用者へのサービス提供体制に変化があった時には面会時等に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、家族が気軽に要望などを話せるような雰囲気作りに努めている。また、家族の相談や意見には全ての職員が対応できる体制となっている。ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示するとともに、ホーム内に掲示し、家族への周知に努めるほか、家族アンケートを実施しており、家族から意見等が出された時は対応策などを掲示している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほとんど異動は行われていないが、異動がある場合には利用者への影響を十分に配慮し、職員間での詳細な引継ぎや利用者への説明を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の日々の相談には管理者や母体施設の専門職、本部の事務長が対応している。運営者は、職員育成の必要性を認識しており、職員を外部研修に派遣するほか、受講後は報告書を基に全職員に対し勉強会を行っているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	これまで研修を主催した団体に問い合わせたり、職員の研修履歴を把握する等の取り組みにより、内部・外部研修の年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との連携の必要性を認識しており、町内の6つの事業所で交流会を立ち上げ、情報交換の機会を持っている。交流会には管理者だけでなく、職員も参加できるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みがあった時はホームを見学してもらったり、自宅を訪問して話し合いを行い、利用希望者及び家族の意向にそうよう調整する等、安心してサービスを開始できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごすことを通じて、一人ひとりの気持ちを理解しようと努めている。また、裁縫や料理の作り方を教えてもらう等、利用者職員と共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉に耳を傾けるとともに、行動を観察し、一人ひとりの希望や意向を把握するよう努めている。また、必要に応じて家族や関係者等からの情報収集も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する時は利用者や家族の希望や意向を聞いている。計画作成担当者が計画の原案を作成した上で、他職員の意見や気づきを出し合って完成させており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、定期的に見直しを行っている。また、普段から利用者の状態を観察したり、家族の希望等を聞いており、変化があった時は随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の介護老人保健施設の協力を得て医療連携体制を整えるほか、利用者の意向に合わせて外出する等、個々のニーズに応じて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。また、同法人の介護老人保健施設が併設されているため、いつでも医療関係者に相談することができる。通院方法や受診結果の報告は家族との合意が図られており、受診結果は面会時や電話、月1回の報告の時に伝えている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、家族や医療機関との話し合いを行い、方針を明確にしている。また、状態変化等があった時は法人内の施設等と連携し、利用者や家族の意向にそうよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への対応については、管理者が指導したり会議の時に確認する等、一人ひとりを尊重した対応を心がけている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、個人に関する記録は訪問者の目につかない場所に保管する等の配慮を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の行動を急かさず、一人ひとりのペースに合わせた対応を行っている。また、利用者の訴えにはすぐ対応するよう努める等、個々のペースを大切に、柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立を作成している。食事の下ごしらえや片付け等、利用者ができることは協力してもらうほか、食べこぼし等へのサポートを行ったり、会話を楽しみながら職員も一緒に食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴となっているが、希望があれば随時対応しており、入浴時は利用者の羞恥心に配慮している。入浴を拒否する利用者には曜日を変更したり、再度誘導する等の工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者との日々の関わりや家族からの情報を通して一人ひとりの得意なこと等を把握しており、個々に合わせて洗濯物たたみや調理、裁縫、畑の見回り、水やり等の役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑作業等、日常的に外出する機会を作るほか、利用者の希望にそった場所に出かけている。外出時には距離やその日の体調等に配慮して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の内容やその弊害を理解しており、拘束のないケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、理由等を記録したり、家族の同意を得る仕組みとなっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の理由で施錠しているが、日中は施錠していない。外出傾向を察知できるよう利用者を注意深く観察しており、察知した時には付き添う等の支援が行われている。また、無断外出時に備え、運営推進会議の場で協力を呼びかける等の取り組みを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の協力を得て利用者と一緒に避難訓練を実施している。また、災害時に近隣からの協力が得られるよう、運営推進会議を通じて働きかけている。夜間に災害が発生した場合に備え、連絡方法を確認する等の話し合いは行っているが、実際の訓練は行われていない。また、災害時に備えた備蓄品が用意されていない。	○	日中に夜間の職員数で訓練を行う等、より実際に近い体制での訓練に期待したい。また、災害時に備えて、数日分の食料や飲料水等の備蓄品を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士が献立を作成しており、栄養バランスやカロリーに配慮されたものとなっている。1日の食事や水分の摂取量を概ね把握しており、利用者の状況に応じて、必要時は記録をとる体制となっている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成しており、保健所や母体施設からの情報があった時等には見直しを行っている。また、定期的に勉強会を開き、職員の理解を深めている。感染症に関する情報は、毎月の手紙を活用して家族に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファやテーブル、イス等の家具が置かれている。テレビ等の音量や日射しの強さは適切であり、また、季節の花を飾る等の配慮も行われているため、居心地よく過ごせる空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうよう、入居時に利用者や家族に説明しており、タンスや衣装ケース、応接セット等の馴染みの物が持ち込まれている。また、利用者の意向を聞きながら個々にあった居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。